

みずほマーケット・トピック(2016 年 6 月 24 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3.本日のトピック」はお休みとさせていただきます。

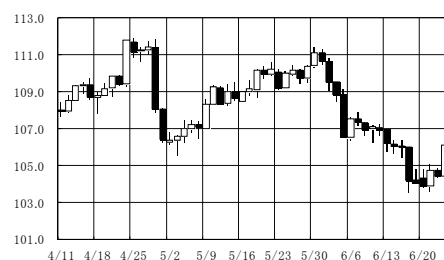
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週後半急進する展開。週初 20 日、104 円台後半でオープンしたドル/円相場は、日経平均株価の上昇を受けて強含む場面が見られるも、特段目立った材料も無い状況下、円買い優勢地合いとなり、NY ダウ平均の下落に伴って 21 日にかけて 103 円台後半まで下落した。しかし、日経平均株価が上昇する流れを受けてドル/円は 104 円台前半まで反発。英国の EU 離脱(Brexit)を問う国民投票に関する世論調査で、残留優勢の結果が見られるとリスク回避姿勢が和らぐ中、ドル/円は 104 円台後半までじりじりと上昇。22 日は、翌日に英国国民投票を控え動意に乏しい展開が継続する中、残留との見方が強まると、ドル/円は強含む場面が見られた。だが、世論調査において離脱派優勢との報道に再びリスク回避姿勢が強まり 104 円台前半まで反落。23 日にかけては、残留優勢の報道や米金利上昇を背景にドル/円は 105 円台後半まで上昇し、その後も米新規失業保険申請件数の良好な結果を好感すると 106 円台に乗せた。本日にかけては英国国民投票の開票状況に応じて乱高下する展開。朝方には残留派優勢との報に一時週高値となる 106.87 円まで上昇する場面も見られたが、その後は、離脱派優勢との報に一時年初来安値となる 103.07 円まで急落した。本稿執筆時点でも開票速報の結果に神経質な値動きが継続している。
- ・今週のユーロ相場は揉み合う展開。週初 20 日、1.13 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、1.13 台後半まで上昇する場面が見られるも、ユーロ/ポンドが下落すると 1.13 台前半まで連れ安に。21 日にかけても、ユーロ/ドルが 1.13 台前半で軟調推移となる中、ドラギ ECB 総裁の追加緩和を示唆する発言を受けてユーロ売りが強まり、1.12 台前半まで下落した。その後の 22 日は、ユーロの買い戻しが強まる中、ユーロ/ドルは 1.13 台前半まで値を戻す展開となり、23 日には、世論調査において残留派優勢と結果が示されるとリスク回避姿勢の後退からユーロ/ドルは 1.14 台前半まで上昇した。その後、ドル買い優勢地合いにユーロ/ドルは 1.13 台前半まで反落するも、残留期待を背景とするユーロのショートカバーが強まり、1.13 台後半まで上昇した。本日にかけてのユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1428 まで上昇する場面も見られるも、開票速報の結果に応じて 1.11 台後半から 1.13 台前半を行き来する荒い値動きが続いている。

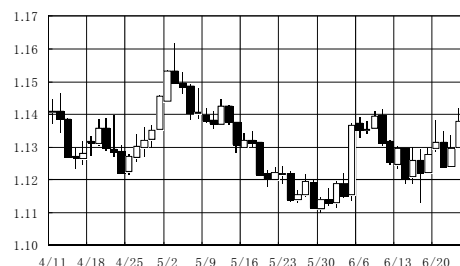
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		6/17(Fri)	6/20(Mon)	6/21(Tue)	6/22(Wed)	6/23(Thu)
ドル/円	東京9:00	104.77	104.64	103.83	104.72	104.65
	High	104.84	104.85	105.06	104.85	106.18
	Low	104.08	103.77	103.58	104.31	104.04
	NY 17:00	104.10	103.92	104.77	104.45	106.14
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1271	1.1347	1.1321	1.1249	1.1327
	High	1.1296	1.1383	1.1350	1.1338	1.1422
	Low	1.1223	1.1288	1.1242	1.1237	1.1298
	NY 17:00	1.1278	1.1314	1.1242	1.1296	1.1380
ユーロ/円	東京9:00	118.05	118.76	117.54	117.76	118.50
	High	118.10	119.12	118.66	118.60	120.97
	Low	116.92	117.37	117.34	117.43	117.95
	NY 17:00	117.38	117.59	117.77	117.99	120.94
日経平均株価		15,599.66	15,965.30	16,169.11	16,065.72	16,238.35
TOPIX		1,250.83	1,279.19	1,293.90	1,284.61	1,298.71
NYダウ工業株30種平均		17,675.16	17,804.87	17,829.73	17,780.83	18,011.07
NASDAQ		4,800.34	4,837.21	4,843.76	4,833.32	4,910.04
日本10年債		-0.15%	-0.15%	-0.14%	-0.14%	-0.14%
米国10年債		1.61%	1.69%	1.71%	1.69%	1.75%
原油価格(WTI)		47.98	49.37	49.85	49.13	50.11
金(NY)		1,294.80	1,292.10	1,272.50	1,270.00	1,263.10

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・本邦では、7月1日(金)に日銀短観6月調査が発表される。大企業・製造業の業況判断DIは+4ポイントと3月調査(+6ポイント)から悪化が見込まれるほか、大企業・非製造業も+20ポイント(3月:+22ポイント)と悪化を予想する(みずほ総研による予想)。3月調査と同様に、6月調査においても製造業では、年初から定着した円高基調による輸出企業の採算悪化に対する懸念や在庫調整圧力の残存などが、業況判断を芳しくないものにすると考ええる。非製造業についても、インバウンドによる需要増を受けた小売業や、住宅着工が堅調な建設業など、業況判断の改善は一部の業種に止まるだろう。多くの業種では、伸び悩む個人消費を背景に業況判断は悪化する見込みだ。なお、6月1日に発表された消費税増延期は、個人消費の底割れを防ぐ一方で、今年度末に見込まれていた駆け込み需要の後ろ倒しにも繋がるため、企業マインド改善に及ぼす効果は限定的と考える。業況判断以外では、大企業・製造業の想定為替レートが、3月調査の117.46円から、年初からの円高を受けてどこまで引き下がるかに注目が集まる。このほか、30日(木)に5月鉱工業生産(速報値)、1日(金)に5月消費者物価指数(CPI)の発表が予定されている。
- ・米国では、29日(火)に1～3月期GDP(3次速報)が発表され、前期比年率+1.0%と2次速報(同+0.8%)から上方修正されると市場では予測されている。3月貿易収支や3月コア小売売上高(自動車・ガソリン・建材・外食を除くベース)が小幅ながら上方修正されたことが、3次速報の伸び率が2次速報よりも拡大すると予測に繋がっている模様だ。また、7月1日(金)には6月ISM製造業景気指数の発表が予定されており、市場予想は51.0と5月(51.3)から小幅に低下することが見込まれている。もっとも、基調で見ればISM製造業景気指数が回復を続けていることに変わりはない。昨年末を境にドル高からドル安基調に変わったことが、製造業の景況感改善に繋がっていると考えられるため、ドル高の流れに転じない限り、景況感が再び大幅に悪化することはないだろう。このほか、29日(水)に5月個人所得、5月個人支出及び5月PCEコアデフレータ、FRB高官発言として30日(木)にブラード・セントルイス連銀総裁の講演が予定されている。
- ・欧州では、30日(木)に6月ユーロ圏消費者物価指数(HICP、速報値)の発表が予定されている。5月は、前年比▲0.1%と2か月連続で前年比マイナスとなった。原油価格が前年比で大幅マイナスとなったことが影響しており、6月においても同様に原油安がHICPを低水準に押し止めると予想する。このほか、29日(水)に6月ユーロ圏消費者信頼感指数(確報値)、7月1日(金)に5月ユーロ圏失業率、政治日程として28日(火)～29日(水)にかけてEU首脳会議が開催される。

	本 邦	海 外
6月24日(金)	_____	・米5月耐久財受注 ・米6月ミシガン大学消費者マインド指数(確報) ・独6月IFO企業景況感指数
27日(月)	_____	_____
28日(火)	_____	・米1～3月期GDP(3次速報) ・米4月S&P/ケース・シラー住宅価格 ・米6月消費者信頼感指数 ・EU首脳会議(ブリュッセル、～29日)
29日(水)	・5月商業販売統計	・米5月個人所得・消費 ・米5月PCEコアデフレータ
30日(木)	・5月鉱工業生産(速報) ・5月新設住宅着工	・米6月シカゴ購買部協会景気指数 ・ユーロ圏6月消費者物価(速報)
7月1日(金)	・日銀短観(6月調査) ・6月自動車販売台数 ・6月東京都都区部・5月全国消費者物価 ・5月労働力調査 ・5月家計調査	・米6月ISM製造業景気指数 ・米5月建設支出 ・ユーロ圏5月失業率

【当面の主要行事日程(2016年7月～)】

ユーロ圏財務相会合・EU経済財務相理事会(7月11～12日)
 ECB理事会(7月21日、9月8日、10月20日)
 G20財務大臣・中央銀行総裁会議(7月23～24日、四川省成都(中国))
 米FOMC(7月26～27日、9月20～21日、11月1～2日)
 日銀金融政策決定会合(7月28～29日、9月20～21日、10月31～11月1日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2016年6月)

月	火	水	木	金	週末
		1 日本 自動車販売台数(5月) 日本 法人企業統計(1～3月期) 米国 ISM製造業景気指数(5月) 米国 建設支出(4月)	2 日本 マネタリーベース(5月) 米国 ADP雇用統計(5月) ユーロ圏 ECB理事会(ウィーン)	3 米国 雇用統計(5月) 米国 貿易収支(4月) 米国 ISM非製造業景気指数(5月) 米国 製造業新規受注(4月)	
6 米国 労働市場情勢指数(5月) ドイツ 製造業受注(4月)	7 日本 景気動向指数(速報、4月) 米国 労働生産性(1～3月期、確報) 米国 消費者信用残高(4月) ユーロ圏 GDP(1～3月期、確報値) ドイツ 鉱工業生産(4月)	8 日本 国際収支(4月) 日本 GDP(確報、1～3月期) 日本 貸出・預金動向(5月) 日本 景気ウォッチャー調査(5月) 日本 企業倒産件数(5月)	9 日本 機械受注(4月) 日本 マネーストック(5月) 米国 卸売物価(4月) ドイツ 貿易収支(4月)	10 日本 企業物価(5月) 日本 第三次産業活動指数(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、6月) 米国 財政収支(5月)	
13 日本 法人企業景気予測調査(7～9月期)	14 日本 鉱工業生産(確報、4月) 米国 小売売上高(5月) 米国 FOMC(～15日) 米国 企業在庫(4月) ユーロ圏 鉱工業生産(4月)	15 日本 日銀金融政策決定会合(～16日) 米国 生産者物価(5月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(6月) 米国 鉱工業生産(5月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、4月)	16 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(6月) 米国 経常収支(1～3月期) 米国 消費者物価(5月) 米国 消費者物価(5月、確報) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)	17 米国 住宅着工(5月) ユーロ圏 経常収支(4月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ルクセンブルク)	
20 日本 貿易収支(5月)	21 日本 金融政策決定会合議事要旨(4月27～28日開催分) ドイツ ZEW景況指数(6月)	22 米国 中古住宅販売(5月)	23 日本 景気動向指数(確報、4月) 米国 新築住宅販売件数(5月) 米国 景気先行指数(5月) ユーロ圏 EU首脳会議(ブリュッセル、～24日) 英国 EU離脱を問う国民投票	24 日本 金融政策決定会合による主な意見(6月15～16日開催分) 日本 企業向けサービス価格(5月) 米国 耐久財受注(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、6月) ドイツ IFO企業景況感指数(6月)	
27	28 米国 GDP(3次速報、1～3月期) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格 米国 消費者信頼感指数(6月) ユーロ圏 EU首脳会議(ブリュッセル、～29日)	29 日本 商業販売統計(5月) 米国 個人所得・消費(5月) 米国 POEコアデフレーター(5月)	30 日本 鉱工業生産(速報、5月) 日本 新設住宅着工(5月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(6月) ユーロ圏 消費者物価(速報、6月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2016年7月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 日銀短観(6月調査) 日本 自動車販売台数(6月) 日本 東京都都区消費者物価(6月) 日本 全国消費者物価(5月) 日本 労働力調査(5月) 日本 家計調査(5月) 米国 ISM製造業景気指数(6月) 米国 建設支出(5月) ユーロ圏 失業率(5月)	
4 日本 マネタリーベース(6月)	5 米国 製造業新規受注(5月)	6 米国 貿易収支(5月) 米国 ISM非製造業景気指数(6月) 米国 FOMC議事要旨(6月14～15日開催分) ドイツ 製造業受注(5月)	7 日本 景気動向指数(速報、5月) 米国 ADP雇用統計(6月) ドイツ 鉱工業生産(5月)	8 日本 国際収支(5月) 日本 貸出・預金動向(6月) 日本 景気ウォッチャー調査(6月) 日本 企業倒産件数(6月) 米国 雇用統計(6月) 米国 消費者信用残高(5月) ドイツ 貿易収支(5月)	
11 日本 機械受注(5月) 日本 マネーストック(6月) 米国 労働市場情勢指数(6月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	12 日本 国内企業物価(6月) 日本 鉱工業生産(確報、5月) 日本 第三次産業活動指数(5月) 米国 卸売売上高(5月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)	13 日本 鉱工業生産(確報、5月) 米国 財政収支(6月) 米国 ページブック ユーロ圏 鉱工業生産(5月)	14 米国 生産者物価(6月)	15 米国 小売売上高(6月) 米国 消費者物価(6月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(7月) 米国 鉱工業生産(6月) 米国 企業在庫(5月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、7月) ユーロ圏 貿易収支(5月)	
18 米国 TICレポート(対内対外証券投資、5月)	19 米国 住宅着工(6月) ドイツ ZEW景況指数(7月)	20 ユーロ圏 経常収支(5月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(7月) 米国 中古住宅販売(6月) 米国 景気先行指数(6月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	22	23 G20財務大臣・中央銀行総裁会議(四川省成都、～24日)
25 日本 貿易収支(6月) 日本 景気動向指数(確報、5月) ドイツ IFO企業景況感指数(7月)	26 日本 企業向けサービス価格(6月) 米国 FOMC(～27日) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(5月) 米国 消費者信頼感指数(7月) 米国 新築住宅販売(6月)	27 米国 耐久財受注(速報、6月)	28 日本 金融政策決定会合(～29日)	29 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 労働力調査(6月) 日本 家計調査(6月) 日本 全国消費者物価(6月) 日本 東京都都区消費者物価(7月) 日本 商業販売統計(6月) 日本 鉱工業生産(速報、6月) 日本 新設住宅着工(6月) 米国 GDP(1次速報、4～6月期) 米国 雇用コスト(4～6月期) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(7月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、7月)	ユーロ圏 失業率(6月) ユーロ圏 消費者物価(速報値、7月) ユーロ圏 GDP(速報値、4～6月期)

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuho-bank.co.jp/forex/esgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年6月23日	TLTRO II プレビュー～6月23日、もう1つの論点～
2016年6月21日	英国のEU離脱(Brexit)とユーロ相場見通し
2016年6月20日	英議員殺害で思い返されるアンナ・リンド事件
2016年6月17日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「No」と言う勇気と奇襲の「ツケ」～)
2016年6月16日	FOMCを終えて～「利上げの有無」を超えて～
2016年6月15日	英国のEU離脱(Brexit)を巡るQ&A
2016年6月14日	ドル/円相場、水準感の整理～攻守交代の時～
2016年6月10日	週末版(7月以降、ECBは現状維持を貫けるか～戻らないHICPIに苦しめられる公算～)
2016年6月9日	日銀金融政策決定会合プレビュー
2016年6月8日	円相場の基礎的需給環境について
2016年6月7日	イエレンFRB議長講演と米雇用情勢について
2016年6月6日	米5月雇用統計～もはや正常化以前の問題か～
2016年6月3日	週末版(ECB理事会を終えて～2周年を迎えたマイナス金利～)
2016年6月2日	消費増税先送りと「悪い円安」論について
2016年6月1日	年内「最後の円安」に備える時か
2016年5月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年4月分)
2016年5月27日	週末版(本日のトピック:ECB理事会プレビュー～目玉政策を控えて現状維持～)
2016年5月26日	投機ポジションにおける「ドル買い」の正体
2016年5月25日	米通貨・金融政策の捻じれ～「ドル高の罠」から抜けられず～
2016年5月23日	仙台G7を終えて～論点変わらず見通しに影響なし～
2016年5月20日	週末版
2016年5月18日	本邦1～3月期GDP～「不都合な結果」とはならず～
2016年5月17日	ECBのバランスシートとユーロ相場の関係などについて
2016年5月16日	消費増税先送り報道と市場への影響などについて
2016年5月13日	週末版(マイナス金利導入から3か月～外的要因に圧倒される状況続く～)
2016年5月12日	円相場の基礎的需給環境について～第1四半期を終えて～
2016年5月11日	伊勢志摩合意に必要なドイツの説得
2016年5月9日	薄れる米雇用統計の影響力～「量」と「質」の捻じれも懸念～
2016年5月6日	週末版(米為替政策報告書と「秩序的(orderly)」について～結局はドル高が辛くなっただけ～)
2016年4月28日	日銀金融政策決定会合～「良い球」を逃した結末は……～
	週末版(FOMCを終えて～論点は変わらずドル高懸念～)
2016年4月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年3月分)
	「原油価格上昇&円安」をどう考えるべきか？
2016年4月25日	3週間ぶりの111円台を受けて～想定通りの円安～
2016年4月22日	週末版(ECB理事会を終えて～「不都合な真実」を黙殺したドラギ総裁～)
2016年4月21日	日銀金融政策決定会合プレビュー～日銀版TLTRO2か～
2016年4月20日	ECB理事会プレビュー～強まる日本化・円化・日銀化～
2016年4月19日	震災と為替～2011年3月を参考にすべきか？～
2016年4月18日	G20を終えて～追加緩和、「やるなら今」か？～
2016年4月15日	週末版(黒田総裁NY講演を受けて思うこと～「最凶の緩和スキーム」にならないために～)
2016年4月14日	ドル高、金利上昇に脆弱な米経済の現状
2016年4月13日	通貨安競争回避で最も分が悪いユーロ圏(≒ドイツ)
2016年4月12日	敢えて探す円安材料と国際的文脈の踏まえ方
2016年4月11日	円高を巡るQ&A～よくある照会の論点整理～
2016年4月8日	週末版
2016年4月7日	FOMC議事要旨(3月15～16日開催分)
2016年4月6日	ドル/円相場、110円割れの読み方
2016年4月5日	深まるユーロ圏のデフインフレとユーロ高懸念
2016年4月4日	QQE3周年と海外の反応～米国講演を踏まえて～
2016年4月1日	週末版
2016年3月28日	日銀、「5分で読めるマイナス金利」に思うこと
2016年3月25日	週末版
2016年3月24日	ユーロ相場、再考～実質金利、PPP、実質実効為替相場～
2016年3月23日	ブリュッセルテロを受けて～目立つ英ポンドの動揺～
2016年3月22日	ユーロ圏経常黒字とユーロ相場の近況について
2016年3月18日	週末版(過去2か月のG3通貨相場から言えること～基軸通貨には逆らえず～)
2016年3月17日	FOMCを終えて～やはり「2回出来れば御の字」の米利上げ～
2016年3月16日	日銀金融政策決定会合について～際立つECBとの対比～
2016年3月15日	TLTRO2に関するQ&A～侮れない、その実力～
2016年3月14日	求められる、市場期待に対して「No」と言う勇気
2016年3月11日	週末版(ECB理事会を終えて～悔やまれる満点回答～)
2016年3月10日	日銀会合プレビュー～「Mr.Kurodaは気にしない」のか？～
2016年3月4日	週末版
2016年3月3日	今年が「円高の年」なら、まだ底は深い～過去30年の経験則～
2016年3月2日	ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～
2016年3月1日	上海G20、為替見通しへのインパクトについて
2016年2月26日	週末版(筋が通らない日中に対する通貨安批判～まず「FRBの政策修正が筋」～)
2016年2月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年1月分)
2016年2月24日	英国のEU離脱に係る論点整理
2016年2月22日	中国版プラザ合意へ燃る期待について
2016年2月19日	週末版(ECB理事会議事要旨(1月21日開催分)を受けて～「保険」≒「混乱の種」という皮肉～)
2016年2月16日	マイナス金利で円高は「不幸中の幸い」？
2016年2月12日	週末版(やはり始まった購買力平価への回帰～最終的に報われる為替予測とは～)
2016年2月10日	弱まる「期待への働きかけ」と為替相場の関係
2016年2月9日	円の需給環境の総括と展望～15年国際収支を受けて～
2016年2月8日	米1月雇用統計を受けて～成熟化への不安～
2016年2月5日	週末版(マイナス金利決定から1週間を終えて～早くも心配される「本当のマイナス金利」～)
2016年2月4日	「終わりの始まり」が近づくFRBの正常化プロセス
2016年2月3日	円安ドライバーとしては役不足な日銀マイナス金利
2016年2月2日	日銀の追加緩和が可能だった理由
2016年2月1日	日銀マイナス金利政策導入を受けて～逐次投入体制へ～
2016年1月29日	週末版
2016年1月28日	FOMC(1月26～27日開催分)を受けて
2016年1月27日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年12月分)
2016年1月26日	ドラギ総裁講演について～開れるインフレ期待の「壁」～
2016年1月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～静観する勇気～
2016年1月22日	週末版(ECB理事会を終えて～2連敗は避けられるか？～)
2016年1月21日	円相場の調整余地を探る～試される日銀～
2016年1月20日	ユーロ相場を巡る最近の証券投資フローについて
2016年1月19日	ECB理事会プレビュー～ECB版の補完措置へ向けて～
2016年1月18日	「あく抜け」に求められるもの～人民元の完全フロート化～
2016年1月15日	週末版(ECB理事会議事要旨について～ドラギマジック、「初の黒星」の舞台裏～)
2016年1月14日	厳しくなってきたFRBの「瘦せ我慢」